

PSC PICK UP! **ピックアップ**

1月27日(金)

募集



「協働ネットワークフォーラム」(愛知県新しい公共支援事業)にぜひご参加ください

新しい公共 協働ネットワークフォーラム

1月27日(金)、「企業・NPO等・行政 協働ネットワークフォーラム」(愛知県委託事業)を開催致します。(会場:ウィルあいち)。このフォーラムは、企業・NPO等・行政など17団体で構成する「協働ネット」が運営団体として開催。地域の課題解決のための協働やネットワークづくりに向けて、基調講演、シンポジウム、ブース展示や協働マッチングボード等を通じて、交流や協働の促進を図ります。

多様な主体によるネットワークの取り組みの一例として、県内市町村のNPO等や企業、行政に幅広く参加を呼びかけます。「協働に関心がある」「協働で新たな事業展開を考えたい」というNPO等、企業のみならず、ぜひご参加ください。(下平) ※詳しくは同封のチラシをご覧ください。

日時 1月27日(金) 12:00~
会場 ウィルあいち3F 大会議室
(名古屋市中区上野町1番地)

内容 基調講演
「新しい公共がめざす協働とは」
早瀬昇氏
(内閣府「新しい公共」推進会議構成員)
対話シンポジウム
「はじめよう。協働で創る新しい地域社会」
コーディネーター:岸田真代
協働事例発表/(特活)遠野まごころネット
申込み 必要事項を記入の上、FAX又はE-mailでPSCまで



募集

PSCで活動しませんか? ボランティア大募集!!

PSC事務局内で仕事のお手伝いをして下さるボランティアを募集しています。

ボランティアの主な仕事内容は以下の通りです。

- ・資料整理
- ・アンケート集計
- ・データ集計
- ・広報紙発送作業(本紙)
- ・各種事業の事務やイベントのお手伝い
- ・労務や会計
- ・ホームページの更新 などなど



空いた時間を利用して、私たちと活動しませんか? 個性的で元気なスタッフが心よりお待ちしております!! 詳細は、PSC事務局までおたずねください。

※Tel: 052-762-0401 Mail: info@psc.or.jp

ありがとう! ボランティアさん

はじめまして。6月からお世話になっています、春日さと子と申します。初めてこちらに来てから、あっという間に半年が経過しました。

私がPSCへ来るきっかけになったのは、「社会復帰したい!」という思いでした。私には4歳の子供がいるため、なかなか長時間の仕事はできませんが、そんな中でもPSCでは私に仕事を任せてくれるので、大変やり甲斐を感じています。今までNPOと縁がなかったため、学ぶ事も多い毎日です。

これからも、どんどん新たなことを吸収しつつ、微力ながらPSCの活動に貢献できればと思っています。(春日)

「社会的事業コーディネーター養成講座(第1期)」修了日の翌週からボランティアをさせていただいております守屋保美です。中間支援NPOの多岐にわたる活動現場から多くの刺激を受ける毎日です。先日の「第8回パートナーシップ大賞」では、事務局のお手伝いを通して、NPOと企業のすばらしい協働事例にたくさん触れることができ、とても勉強になりました。至らない点もありますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(守屋)

ご案内

PSC恒例の 新春交流会 開催します!

1月30日(月)

社会に大きな脈動があった2011年を越えて、新しい予感を感じさせる2012年。「協働」のカタチも進化します。新春を祝って楽しいひととき、「仲間とコラボ」で過ごしませんか? PSCらしいイベントを企画しています。PSC会員、企業、NPO、PSCにご関心あるみなさま! 大歓迎です。お気軽にお越しください。みなさまのご参加をお待ちしています!(事前申し込みが必要です)

日時・場所: 1月30日(月) 18時~20時 池下ピアザ
500円/1000円(寄附として)
お申込みはPSC加藤・鬼頭・成瀬まで。



PSCレポートご愛読のみなさまへ《緊急》

ご寄附のお願い

“正会員&賛助会員大募集”と“寄附のお願い”

先号でもお伝えしたとおり、PSCでは認定NPOの取得をめざして準備をしています。そのためには、会員の皆様のご理解と、あたたかいご支援が不可欠です。たゞいまPSCでは、正会員および賛助会員を大募集中です!! 皆様の周辺で活動されているNPOや企業の方々にも是非お声掛けをお願い致します。

そして会員の皆様にも、ぜひご協力(3,000円以上)いただければ幸いです。今後ともPSCへのご理解・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い致します。

事務局だより

あけましておめでとうございます。昨年の11月には「第8回パートナーシップ大賞」、12月には「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」と、PSCの柱となる自主事業が続き、あっという間に年を越してしまいました。私は、どちらの事業でも「司会」という大役を仰せつかり、発表者の熱心なプレゼンテーションに圧倒されつつ、「協働」の意義を実感することができ、充実した貴重な時間を過ごさせていただきました。今年も素晴らしい「協働」が生まれることを、心より祈念いたします。昨年は、未曾有の大震災をはじめ、暗いニュースが続きましたが、今年はもう少し明るく、穏やかな一年になるよう祈っています。本年も、どうぞよろしくお願い致します。(鬼頭)



PSC Report 8

パートナーシップ・サポートセンター

Vol.81

発行 特定非営利活動法人
パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
〒464-0067 名古屋市中区池下1丁目11番21号
サンコート池下4F
TEL (052) 762-0401 FAX (052) 762-0407
E-Mail info@psc.or.jp URL http://www.psc.or.jp
発行人・岸田真代

新年のご挨拶

年の初めに、平和とみなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

東日本大震災、そして福島第一原発事故という、私たち日本人、いえ大袈裟ではなく人類にとっての試練の年が暮れ、新しい年が始まりました。

離れた地に暮らす私たちのやるべきことは、自分の身に起きていたら...という想像力を絶やさないと、そして直接現地の人々に寄り添うことはできなくても、その思いをできるだけ共有し、復興へ心合わせてそれぞれの持ち場で行動することだろうと思います。

4月からはNPO法が大幅に改正施行されます。NPO法ができる前から活動してきた私たちパートナーシップ・サポートセンター(PSC)にとっても、新年は新たな地平への第一歩が踏み出せる年にしたいと考えています。そして「新しい公共」をチャンスに、NPO、企業、行政をはじめ多様な主体による協働への支援を、さらに強化・展開していく年にしたいものです。

みなさまにとりましても、今年一年が実り多き年になりますように。

2012年元旦

パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
代表理事 岸田 真代

第8回パートナーシップ大賞グランプリは「子どもたちに給食を届ける、心のそしな事業」に決定!

「第8回パートナーシップ大賞」グランプリ発表・表彰式が、11月26日(土)名古屋国際センター(名古屋市中村区)にて行なわれました。今回は全国から集まった29事業の中から、一次審査、現地調査・ヒアリング調査を経て、二次審査を通過した6事業による熟のこもったプレゼンテーションが行われました。多くの参加者は、それぞれ工夫を凝らしたプレゼンに熱心に耳を傾け、「あなたが選ぶグランプリ」に1票を投じました。6名の審査員(審査委員長 奥野信宏氏)による最終審査でグランプリ1事業を決定し、感動の表彰式が行われました。

今回グランプリに輝いたのは、NPO法人アクセス-共生社会をめざす地球市民の会(京都)と、パートナーシップ大賞のノミネート企業としてはすっかり常連さんの近畿労働金庫(大阪)との協働事業「子どもたちに給食を届ける、心のそしな事業」。また今回は、企業とNPOとのコミュニケーションに優れた協働事業に対して、特別賞「オルタナ賞」が新しく設けられ、「OKUTAこめまめプロジェクト」に贈られました。

今年度は、東日本大震災の影響で、当初この開催も危ぶまれましたが、多くの関係者の皆様の英知とご協力のお陰で開催できました。会場内では、パートナーシップ大賞に関係する団体や企業が行う、震災の救援・復興関連の協働事業について、パネル展示を行いました。

(水野)

第8回パートナーシップ大賞グランプリ事業

京都府・大阪府

子どもたちに給食を届ける、心のそしな事業



NPO法人アクセス共生社会をめざす地球市民の会 理事 野田 沙良さん

この1年半、「心のそしな」プロジェクトを成功させようと、近畿ろうきんさんと一緒に、手づくりしながら事業を創り上げてきました。その結果が、アクセスにとっても、近畿ろうきんにとっても、フィリピンの子どもたちにとってもプラスになり、そしてそれが賞をいただけることにもなりました。とても嬉しく思っています！

近畿労働金庫本店営業部 主任 東中 健悟さん

グランプリ受賞の発表を聞いた瞬間、本当に信じられない気持ちでした。他の団体のプレゼンを伺っていても、どれも社会的に必要な取り組みで、一緒に出来たら、もっと大きいことが出来る可能性を感じました。これからも、他の取り組みを繋ぐ架け橋のような存在の賞に発展していくことを祈念しております。この度は、ありがとうございました。

NPO法人アクセス共生社会をめざす地球市民の会
近畿労働金庫

労働金庫が定期預金等を利用する人に渡す「粗品」の代わりに、粗品分の費用をフィリピンの貧しい子どもたちへの給食代として寄附するしくみを労働金庫が考案。フィリピンの貧困問題に取り組むNGOのコーディネートで、現地の子どもたちの母親に給食を作ってもらい、親の教育意識を高める狙いもある。預金者は、預金をするだけで小額の寄附を抵抗なく行える、新しい寄附の仕組み。



審査員コメント:黒田 かをり氏
(一般財団法人CSOネットワーク事務局長・理事)

この取り組みは、事業自体も協働の仕組みも非常にわかりやすい事業でした。現地の子どもたちは栄養改善され、またその保護者のみなさん方も関わり、コミュニケーションも深まりました。アクセスさんはまさにミッションを遂行され、近畿労金さんは国際開発の新しい事業モデルを作られました。

特に預金者の方が負担を感じないで、こういった国際貢献に参加できるところが、高く評価されました。誰にとってもプラスになる事業だと思います。今後の発展と拡大も見込まれる、良いビジネスモデルです。引き続きがんばっていただきたいと思います。

ミニ講演 第6回パートナーシップ大賞グランプリ受賞その後 「防災啓発の多様なコンテンツ。広がり続ける企業との協働」

特定非営利活動法人プラス・アーツ
理事長 永田 宏和 氏



プラス・アーツでは、様々な課題に対して、デザイン・アート・建築といったクリエイティビティをプラスして、解決する提案をしています。

東京ガスさんと始めた「イザ！カエルキャラバン！」。楽しく学ぶ防災訓練を、今は全国で行っています。防災ドロップは、会社のロゴを差し替えて全国でガス会社が使ってください。また、ガス会社は、地震の際にガスの復旧に努めますが、そこで働く社員と家族が全員無事であるという大前提があります。

「SAVE YOUR SELF」というメッセージをイラストで表現した大判ハンカチを、全社員に配りました。以来「SAVE YOUR SELF」は、東京ガスの中で未来永劫終わらないキャンペーンとなりました。その後、防災の日の展示や、シンポジウムの企画などもさせていただき、そこから発展して社内報の表紙の中で防災啓発を行いました。そのデザインが次の年にはカレンダーになり、パンフレット、ホームページ、そしてノベルティへと発展しました。大阪ガスとの協働も始まりました。オリンピック銅メダリストの朝原さんも参加し、スポーツと防災を融合した啓発プログラムが生まれました。子どもに人気のこのプログラムは、今度東京マラソンの時にも実施することが決まっています。

3月11日以降、全国で非常に防災熱が上がりました。「地震ITSUMO」というサイトを立ち上げ、これまで蓄積したノウハウを全部公開し、無料でダウンロードできるようにしています。



企業との協働はfifty-fifty、そして利用する・される関係だと思っています。僕は企業を利用して、企業も僕らのノウハウを利用して。利用しようと思われものを持ち続け、切磋琢磨しながら常に利用されるNPOでありたいと思います。協働の中で新しいものを見いだせることは、僕らの中で一番刺激的でかつ重要なことです。地震大国日本で、これから起こることにに対してできることを、徹底的にやっていきたいと思っています。

パートナーシップ大賞“番外編”!? - 懇親パーティー in 園 -

授賞式が無事終了した後は、会場近隣のChina Diningにて、恒例の懇親パーティーです。会場では緊張した面持ちだったプレゼンターの方々も、ここではパワー全開!! みな流暢な語り口でエピソードを紹介。協働のウラ話など「ここだけの話」を惜しみなく披露されていました。

中には、審査員から「〇〇さん、それをプレゼンで話してくればグランプリだったのに…」とすかさずツッコミが入り、思わず照れ笑いするプレゼンターの方も。

大盛況のうちに終了した今回のパーティーの主役はやはり、「4度目の正直」で栄冠を射止めた近畿労働金庫・東中氏。大役を果たした“さわやかな笑顔”が印象的でした。(成瀬)



▲名刺交換も盛んに行われた

●ご協賛ありがとうございました●
トヨタ自動車(株) (株)デンソー (株)ジェー・シー・エム (株)アバンセコーポレーション、(財)中部産業・地域活性化センター

第8回パートナーシップ賞【5事業】

埼玉県

OKUTAこめまめプロジェクト事業

NPO法人生活工房つばさ・游
株式会社OKUTA

オルタナ賞

有機米の購入を通じて企業、NPO、地域住民が地域の農業を支えるCSA(コミュニティー・サポータード・アグリカルチャー)プロジェクト。NPOが懸け橋となり、企業単位で有機農家と提携を行う先駆的な協働事業。



審査員コメント:森 摂氏((株)オルタナ代表取締役社長)

世界で有機農産物が全体に占める割合、作付面積のデータから見ても、日本は有機農業後進国です。有機農業は非常に手間がかかります。田んぼの草取り、農業を使わないと虫がつきます。これは消費者・生活者が支えていかなければいけないと思うのです。そういう中で、この事業は一つの企業が支えているということと、農家の皆さんの頑張り、仲介役の熱心なNPOの活躍。このような組み合わせが全国に拡がり、当たり前になっていくことを望みます。

大阪府・愛知県

病気の子も達への夢のアイテム実現事業

NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス
株式会社長谷川綿行

「がんになっても笑顔で育つ！」をスローガンに小児がんの子どもとその家族を支援。衛生製品や、病室の家具・カーテンなどの住環境製品を医療衛生製品製造販売のメーカーとの共同開発で製品化。全国の病院やクリニックに拡販を目指す。



審査員コメント:岸田 眞代(パートナーシップ・サポートセンター代表理事)

子どもたちが本当に辛い時、悲しい時、まわりの大人たちがどんな気持ちになるか、そして何ができるのか、という想いをとても上手に協働という形で成立させ得た事業だと思います。「小児がんになっても笑顔でいられる」一このスローガンによって、本当に子どもの痛みや不安がやわらげられていくことを期待します。夢の病院をつくろうという気持ちに、企業が共感した上で、協働事業として成果を上げ、早い時期に夢の病院が実現しそうで、嬉しく思います。

宮城県・愛知県

中古自転車再生を通じた被災地支援事業

NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)
NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
株式会社デンソー、刈谷市役所

地元市役所と、アジアの障がい者に車いすの寄贈等を行う福祉団体と自動車部品製造メーカーが連携し、東日本大震災直後に現場のニーズに合わせて不要自転車を再生し、寄贈した事業。迅速な被災者支援に結びついた。



審査員コメント:飯尾 歩氏(中日新聞社 論説委員)

震災の復興に関する活動が非常に重要視される中、いち早くタイムリーな取り組みをされたところが高く評価されました。自転車を修理するNPOと、デンソー、刈谷市役所、現地NPO、それぞれが重要な役割を担っておられます。

これからもどうかこの御縁ができた宮城との関係を発展させて、お互いが行き来できるような関係を作って頂けたらと思います。本におめでとうありがとうございます。

島根県

中海・飯梨川の自然再生・牧草栽培事業

NPO法人自然再生センター安来支部
株式会社中島建設

島根県飯梨川で、環境を損ねていた竹や雑草木を、地元企業・行政・住民が連携して伐採除去し、水遊び・環境教育もできる「親水広場」や牧草ゾーンに整備し、自然再生から新たな生産拠点を生み出す、循環再生型社会の構築を目指す。



審査委員長コメント:奥野 信宏氏
(中京大学理事・総合政策学部教授)

中海・飯梨川、実は私はあの辺りの山奥の出身で、プレゼンは非常に懐かしい思いで拝見しておりました。国の事業で地方の新しい公共を育てるという取り組みに携わっておりますが、本事業は都会の方にはなかなか理解が得難い、大変大きな事業であります。地域の環境を守るだけではなく、地域共通の問題、地域づくり、地域のコミュニティを作る、という意味でも大変大きな役割を果たしていると感じています。

東京都

古本ネットワークで拓く共生社会事業

フェア・ワーク・JAPAN
松坂ティーエムコンサルタンツ株式会社

寄贈された古本を、障がい者が回収・清掃、さらにデータ入力等の作業を行い、企業が開発したビジネスモデルと古本販売プラットフォーム(書籍通販サイト等)を活用して販売する事業。福祉作業所で働く障がい者に多様な労働機会を提供している。



審査員コメント:梅原 みどり氏
(ソフトバンクモバイル(株)総務本部CSR推進部)

この事業が非常に高く評価されたのは、既存の仕組みをうまく活用し、新しいビジネスモデルを創られたところ。福祉分野の社会貢献とビジネスをうまく統合させています。それによって、多くの障がいを持つ方に働く機会を提供されて、このプロジェクトのミッションである、障がいをもつ人も持っていない人も共に生きる、そんなビジョンをうまく推進されていると感じています。今後の継続と発展して、他の団体や地域への拡がりに期待しています。

「パートナーシップ大賞」事業や、 パートナーシップ・サポートセンターの仲間たちによる 東日本大震災救援・復興関連協働事業“企業&NPO”



第6回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト 1位から3位までが1点差！かつてない大接戦に！

最優秀賞は「持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪」による
「CMによるNPOの広報力アップおよび地域活力の見直し事業」に決定！！

▼恒例の記念撮影。戦い終わって満面の笑みが



■講評 PSC代表理事 岸田 貞代

書類審査では『アイデアの面白さ』というよりはむしろ、『実現性』に重きを置いた議論になりました。今日までにアイデアがどんどんブラッシュアップされ、プレゼンのレベルの高さは今までで最高、審査は大接戦となりました。ミニ講演の長野サマライズ・センターさんは、協働アイデアコンテストで最優秀賞を獲得後、協働を実現、「第7回パートナーシップ大賞」でグランプリを受賞されました。これは本コンテスト実施当初からの狙いのひとつではありますが、グランプリ獲得はできずかと思うくらいでした。今回の受賞団体は本当にレベルも高く差がないので、今後どの団体がいち早く協働を実現し、追加助成を獲得していくのが楽しみです。期待しています。

■最優秀賞受賞コメント

持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪
代表 山田 勇さん

表彰されるのは初めてで、(発表よりも)今の方が緊張しています。まさか最優秀賞を獲れるなんて思っていませんでした。せっかく賞をいただいたので、ぜひ事業を実現して、NPOの広報力をアップしたいと思っています。

さらにいろんな地域でこの事業が進んでいって、NPOが力をつけていく。そんな時代になればいいなと思います。本日は本当にありがとうございました。



■ミニ講演

「アイデアコンテストからパートナーシップ大賞へ～イバラ?の道がパートナーシップ大賞に」

特定非営利活動法人長野サマライズ・センター 小笠原 恵美子氏

企業に対する協働を模索する中、2008年1月、「企業のコールセンター機能を活用した聴覚障害者のための情報紹介システム」事業で、第2回協働アイデアコンテスト最優秀賞をいただきました。それからは常にプレッシャーを感じる日々が続きました。

2009年4月、iPhoneの登場により企業からの提案で夢に描いていた、大学を含めた3者による「iPhone、iPadを活かした教育支援」のプロジェクト化が実現しました。しかし、研究費がある大学と企業と一緒に行動できても、NPOは対等の関係を築くのは難しく、事業継続も危ぶまれました。一番困ったことは大学や企業名を必ず一番に広報しなくてはならず、NPOのアピールにはとても苦労しました。NPOと企業の想いの違いから、頑張っても企業に満足してもらえず、NPOの参加意味はあるのかと2年目は本当に悩みました。でも、このプロジェクトを活かすも殺すも自分たち次第。どうしたら相手のお役に立てるのかを考え、自分たちもこの事業を有効活用し成果をあげようと思いました。ソフトバ

第6回企業&NPO協働アイデアコンテストが、12月16日(金)名古屋栄ビルで開催されました。応募20団体の中から第一次審査を通過した5団体が熱い闘いを繰り広げ、厳正な審査の結果、長野県から参加した「持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪」の「CMによるNPOの広報力アップおよび地域活力の見直し事業」が最優秀賞を獲得しました。今回は協働アイデアもさることながら、スクリーンにアニメの女の子を映し出し、対話形式でプレゼンを進めるという斬新な手法も飛び出しました。

結果発表を兼ねた交流会には多くの企業・行政の皆さんも参加され、NPOとの交流の輪が広がりました。翌17日の中日新聞朝刊にも大きく取り上げられ、主催者側の一人として喜びをいっばいです。一つひとつの協働アイデアが花開き、満開に咲き誇るのを楽しみにしています。

(財)中部産業・地域活性化センター (CIRAC) 榎原 元



熱いプレゼンに会場中が熱心に耳を傾ける

授賞式後の交流会も大盛況



12月17日 中日新聞朝刊

■審査員特別コメント CIRAC専務理事 小林 宏之氏

6年間コンテストをしています。審査をしていてこんなことは初めてです。上位の3つが1点差となりました。異例中の異例ではありますが、点差がほとんどなかったということで、最優秀賞の助成金を15万円とし、5万円を譲っていただいた。優秀賞・特別賞を10万円ずつとさせていただきます。本当の差はこれから先企業との協働が実現して、追加助成を受ける段階で出てくると思います。苦しい中で1~5位をつけさせていただきましたが、これから企業との協働を目指して活動していただきたいと思っています。

ンクという名前はNPOの信頼性を高めてくれ、一方、企業はシステムを使用した1企業としてメリットを営業、大学からの情報提供もあり、新しい分野の支援が実現しました。

そして、「第7回パートナーシップ大賞」に応募し、活動を振り返り、確認し、役割を再認識することで、改めてお互いを見直すことができたような気がします。さらにグランプリ受賞という、初めて目に見える形で同じ場所で成果を共有できたことがお互いの雰囲気を変えてくれました。認められたという実感が持て、今までのわだかまりも溶け出したように感じました。

このシステムを応用して被災地支援や製品開発、行政との協働などへと事業は発展しています。企業もNPOも積極的につながってください。イバラだと思っていた道が、今は菜の花が咲き乱れる希望の道になっています。今日はありがとうございました。



企業&NPO 協働アイデアコンテスト受賞事業一覧

	事業名/団体名	事業概要
最優秀賞	「CMによるNPOの広報力アップおよび地域活力の見直し事業」 持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪/長野県	CM制作のサポート(技術面、機材など)を受け、NPOのCMを制作し、インターネット配信から、地域に根ざしたケーブルテレビなどへの配信に繋げる。
優秀賞	「障がい児者の無心な絵画のリース並びに商業意匠としての活用事業」 (N)障がい児者、高齢者を癒し支援する会/愛知県	障がい児者による絵画等の作品を常設展示、即売及び、企業等にリースする。また企業等で、商品等のデザインとして活用してもらう。
特別賞	「障害者自立支援のための新規雇用創出事業」 (N)名古屋青少年活動支援ネット/名古屋市	廃棄するパソコンやOA機器を安価、もしくはは無償で回収し、就労支援団体が支援する障害者に、マテリアル資源部材に解体する作業を依頼。就労機会を増大させ、雇用を創出する。
奨励賞	「岐阜プレママフェスタ(岐阜のプレママのためのイベント展示会)」 (N)クローバ/岐阜市	岐阜近郊に暮らす結婚を控えたカップルや出産前の女性及び夫婦を対象に、子育てについての不安が解消できるようなイベントを開催する。
	「ビジテーションサービス」 FS中部/親子のふれあいと絆を大切にす会/愛知県	ビジテーションサービス(面会交流支援)として、欧米のモデルを参考にイベント(キャンプなど)・シンポジウム・お茶会(情報提供会)・学習塾・面会交流などを行う。



▲(N)障がい児者、高齢者を癒し支援する会



▲(N)名古屋青少年活動支援ネット



▲(N)クローバ



▲FS中部/親子のふれあいと絆を大切にす会

PSC代表岸田の“東へ西へ”(2011年11月12月)

11月)早々の理事会(11/2(水)第3回)は、パートナーシップ・サポートセンター(PSC)として認定NPO法人をめざすべくかどうかの議論が中心となった。「パートナーシップ大賞」という、もっとも明確にミッションを表現する事業をもつPSCにとって、改正NPO法(2012年4月施行)は大きな視座を与えるものでもある。

11/7(月)には「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」第一次審査をCIRACさんとともに(本番は12/16(金)、後述)、11/9(水)には10年を超えるデンソーユニティサービスでの「ビジネスマナー&マインド研修」を1年ぶりに実施。これまで800人を超える社員を研修してきたが、ほぼ全員一回りしたことになる。11/11(金)には今年度の内閣府の目玉事業である「新しい公共支援事業」として提案した「協働&協創型ネットワーク促進事業」(愛知県委託事業)のひとつ、担い手養成講座の第1回を実施。なかなかはじめの人には分かりにくい「新しい公共」の担い手の役割等を、ワークショップを通じて少しは理解を深めていただけたと思う。

11/12(土)は滋賀県大津市で「おうみ未来塾11期生」の卒業式。これも運営委員やアドバイザーとして10年以上かかわってきたことになる。翌11/13(日)は「SB&企業の連携推進事業」第4回検討会議。ようやく全国のNPO支援センターへのノウハウ移転のまとめ方が見えてきた。11/15(火)にはそれらの成果を、事業担当者とともに経産省の中間報告会(東京)にて発表。翌11/16(水)は中部電力の環境懇談会。今年は愛知県武豊町のメガソーラー(太陽光発電)などを視察。11/19(土)は静岡県三島市で若者対象に講演。11/24(木)には岡崎市の南部薬品(株)第7回CSR委員会、今後の進め方などを検討した。

11/26(土)はパートナーシップ・サポートセンター(PSC)最大の自主事業「第8回パートナーシップ大賞」発表・表彰式。今年の何とレベルの高かったこと!参加者の評判も上々。「SB&企業の連携推進事業」の第2回集合型研修も兼ねており、全国か

ら5カ所のNPO支援センターの方たちも初めて「パートナーシップ大賞」に触れ、その意義を高く評価してくれた。11/29(火)には中小企業コンサルの事業で2年目の協働企業3社のCSR活動報告会を実施。自分たちで作ったCSRレポートを、作業服にネクタイ姿で初々しく報告するT社若者たちの成長ぶりがうれしい。

12月)はさらに東へ西へ。12/1(木)はNPO法13周年。そのイベントやNPO・NGO連絡会臨時総会出席のため東京へ。NPO会計基準の普及等についても全国の有志で懇談。翌12/2(金)は全国のNPO支援センターによるCEO会議。翌12/3(土)は地球環境基金の「運営力パワーアップ研修」(第4回、名古屋)にて協働の講義。12/6(火)は岐阜県協協主催の「社会貢献セミナー」での基調講演で大垣市へ。12/8(木)は新しくできたNPOセンターの「協働コーディネーター講座」のため夕方から滋賀県大津市へ行き夜遅くにとんぼ返り。

12/10(土)~11(日)は、NPO会計基準をどう広めていくかを中四国で考える愛媛県会に参加。出身が香川県ということもあり、実家に立ち寄り。12/13(火)は新しい公共支援事業「第2回協働ネットワーク会議」。委員の方たちに担い手の役割について考えていただいた。

12/14(水)は認定NPO相談に名古屋国税局を訪問。12/16(金)はPSCとCIRAC(中部産業・地域活性化センター)による自主事業「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」の最終選考会。「SB&企業の連携推進事業」第3回集合型研修も兼ねて実施。1~3位の余りの接戦に、助成金額の変更という前代未聞の措置で対応。翌日の中日新聞には大きく写真入りで取り上げられた(前頁)。

12/26(月)「SB&企業の連携推進事業」第5回検討会議で2011年の大きな事業を締めくくる。

(2011.12.20 岸田貞代)



松山市 坊ちゃんのかくり時計

PSC 主な活動2011年11月～12月

- 11/1(火) 名古屋市公共事業評価、日本総研セミナー (参加)
- 11/2(水) 第3回PSC理事会(5P)、桃の館(株)第6回CSR委員会、太陽電化工業(株)第12回CSR委員会、東海労金来所
- 11/4(金) 「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」第1次審査(5P)
- 11/7(月) なごや環境大学(柳下氏)、マライカの翼プロジェクト来所、太陽電化工業(株)第13回CSR委員会
- 11/8(火) デンソーユニティ研修(5P)
- 11/9(水) 「新しい公共支援事業」第1回担い手養成講座①
- 11/11(金) 「運営力パワーアップ研修」第3回、おうち未来塾卒業式(5P)
- 11/12(土) 「SB&企業の連携推進事業」第4回検討会議③
- 11/13(日) 経産省中間報告会(東京)、桃の館(株)第7回CSR委員会、社会的事業コーディネーター養成科インターン研修(～12/2)②
- 11/15(火) 中電環境懇談会視察(5P)
- 11/16(水) なごや環境大学 加藤氏来所
- 11/17(木) 「新しい公共支援事業」協働個別相談会(豊橋)、高松市ボランティア市民活動セミナー 丸山氏来所、NNネットCSR大阪セミナー(参加)
- 11/18(金) 三島市生涯学習センター講演、社会的事業コーディネーター養成科修了生近況報告会
- 11/19(土) 太陽電化工業(株)第14回CSR委員会
- 11/22(火) シニアボランティア会議、南部薬品(株)第7回CSR委員会、カフェアリス運営会議
- 11/24(木) 「第8回パートナーシップ大賞」発表・表彰式(1.2.3P)
- 11/26(土) 「SB&企業の連携推進事業」第2回集合型研修③
- 11/27(日) ボラみみ総会出席
- 11/28(月) ふくろび活動報告会出席
- 11/29(火) SHD・CSR活動報告会④ 「新しい公共支援事業」協働個別相談会(名古屋)
- 11/30(水) 「新しい公共支援事業」第2回担い手養成講座① 東海ゴム来所

- 12/1(木) NPO・NGO連絡会臨時総会、NPO法13周年イベント(5P)
- 12/2(金) CEO会議(東京)(5P)
- 12/3(土) 「運営力パワーアップ研修」第4回(5P)
- 12/6(火) 岐阜県社協社会貢献セミナー講演(大垣)
- 12/7(水) NPOのための広報スキルアップセミナー⑤ なごや環境大学(全体会議)
- 12/8(木) しがNPOセンター「協働コーディネーター講座」(講師)(5P)
- 12/9(金) CSOラーニング愛知地区定例会
- 12/11(日) 会計協議会 愛媛集会(5P)
- 12/12(月) 三井物産セミナー、(株)二和印刷紙業 第1回CSR委員会
- 12/13(火) 新しい公共支援事業「第2回協働ネット会議」(5P)
- 12/14(水) 国税局訪問(認定NPO取得相談)(5P)
- 12/15(木) 「新しい公共支援事業」協働個別相談会(小牧)、南部薬品(株)第8回CSR委員会、なごや環境大学ゼミ書類審査
- 12/16(金) 「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」最終選考会(4.5P)
- 12/17(土) 「SB&企業の連携推進事業」第3回集合型研修
- 12/20(火) 日本NPOセンター全国会議(大阪)、「新しい公共支援事業」協働個別相談会(名古屋)
- 12/21(水) (株)ドライバーサービス 第1回CSR委員会、愛知県NPOと行政の協働に関する実務者会議第2作業部会
- 12/22(木) カフェアリス運営会議
- 12/26(月) シニアボランティア会議
- 12/27(火) 「SB&企業の連携推進事業」第5回検討会議③
- 12/29(木) 太陽電化工業(株)第15回CSR委員会
- 12/29(木) 年末年始休暇(～1/4)

インターン研修に参加して

天野 聡子 (あまの さとこ) さん

私は岡崎まち育てセンター・りたと刈谷市民ボランティア活動支援センターにお世話になりました。PSCを含め3カ所の中間支援NPOの各団体の特徴がわかりました。

特に印象に残っているのは、りたです。地域活性化のための空き家活用ワンテサロンの向けての取り組みの動きを教えてください、おまつり当日にも参加しました。

地域で課題になっている事例のモデルケースを体感できたことは今後の自分に大きな糧になると思います。



藤岡 博孝 (ふじおか ひろたか) さん

知っている人が一人もないインターン先でうまくやっていけるだろうか。アジア保健研修所に行くことになった私は心配していました。しかし、職員の方々はみな温かく、昼食時には採れたての柿が振る舞われ、ハングラデシュの方がお手製のカレーを出してくださいました。

作業もインターンの私を信頼して思い切らせていただきました。

とにかく人が優しく、毎日が楽しかったです。インターン期間があっという間に過ぎてしまいました。また遊びに行きたいな、と思っています。



1 「協働&協創型ネットワーク促進事業」

新しい公共の担い手養成講座を開催

県内の各地域において、協働のネットワークの担い手となる人材を養成する「新しい公共の担い手養成講座」を開催しました。11月11日(金)「新しい公共の担い手ってなあに？」(岸田真代講師)、11月30日(水)「あなたの地域で協働のネットワークをつくろう！」(市川博美講師)の2回連続講座で、合計48名の方が参加。「新しい公共」や担い手の役割等についての講義や、協働のネットワークづくりにワークショップで取り組みました。

最初は耳慣れない「新しい公共」ということばと概念に「理解が難しい」という方も少なくありませんでしたが、講座修了時には「自分たちがやっていたことは「依頼」だった」「行政も対等な存在であることに気付いた」「関わる人たちが主体的になることが大事」など意識面で大きく変化。講座後、早々に連携の話がまとまった団体もありました。(下平)



2 社会的事業コーディネーター養成講座

インターン研修を終え、講座は折返し地点へ

11月15日(火)から12月2日(金)までの9日間、インターン研修として中間支援センターなどを含む8カ所のNPO・NGOの現場体験を行いました。

研修のふりかえりでは、「NPO活動を肌で感じる事ができた」「自分の想いを一歩先に進める事ができた」「研修で学んだことを自身の活動に活かしていきたい」などの意見が出されました。一人ひとりにとって、今回の研修が有意義な時間であったことがよく伝わってきました。



▲研修のふりかえりに黙々と取り組む

本講座はちょうど折返し地点。引き続きコーディネータースキルの養成を行いながら、1月から小論文と事業計画の作成へと進んでいきます。

3月の修了に向けて、それぞれの想いがカタチにとを目指します！

(松橋)

3 経済団体(等)を巻き込む「SB&企業の連携」推進事業

移転先のみなさんが「パートナーシップ大賞」と「協働アイデアコンテスト」を体験～集合型研修

経済産業省「経済団体(等)を巻き込む「SB&企業の連携」推進事業」事業では、パートナーシップ・サポートセンターの基幹事業に伴って、11月26日(土)「第8回 パートナーシップ大賞」にて第2回集合型研修、12月16日(金)「第6回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト」にて第3回集合型研修を行いました。

全国5カ所の移転先のみなさんに、協働連携支援の現場を、ガイダンスや準備段階の見学を含めて体験していただきました。PSCの実績と「習うより場の体験!」を実感していただけたと思います。また、ノウハウのマニュアル化、人材育成プログラム作成についても10月17日(月)第1回専門家会議、11月13日(日)第4回、12月26日(月)第5回の検討会議を開催しました。

11月15日(火)には、東京の経済産業省別館にて、平成23年度地域新成長産業創出促進事業(ソーシャルビジネス・企業連携支援機能強化事業)中間報告会があり、本事業を受託した全国の他の4団体とともに現状報告プレゼンテーションを行い、審査員から事業推進についてのコメントをいただきました。(加藤)



▲第1回専門家会議



▶第3回集合型研修



▲第4回検討会議

4 ステークホルダー・ダイアログ(SHD)及びCSR推進による中小企業の活力向上事業

CSRレポートを持ち寄り、活動報告

11月29日(火)14:00よりウイंकあいちにてCSR活動報告会が開催されました。

愛知県、北名古屋市等の行政関係者をはじめ、約60名のCSRに高い関心を持つ経済団体・企業NPOの方が参加しました。

前半は昨年度から参加している太陽電化工業(株)、南部薬品(株)、(株)桃の館の活動報告です。試行錯誤を繰り返しながらようやく作成したCSRレポートをもとに、各社の特色を活かした熱のこもった発表に会場の方も熱心に聞き入っていました。

後半は中小企業診断士・木村PSC理事のコーディネートにより成果発表を行った企業3社の代表者と、今年度から参加されている(株)真誠、(株)ドライバーサービス、(株)二和印刷紙業の代表者の方々とディスカッションが催され、各社の取り組みが明確になったことと思います。

各社、いよいよ地域・NPOとの協働を実施する段階を迎えました。今後のさらなる進展が注目されます。

(阿部)



5 NPOのための広報スキルアップセミナー

「プロのコツ」に「目から鱗」

12月7日(水)、PSCと機電通、(N)日本NPOセンターとの共催で「NPOのための広報スキルアップセミナー」を開催しました(会場:電通中部支社)。

講師が電通の社員の方ということもあり、定員を大幅に上回る65名が参加。NPO法人、社会福祉法人、公益法人など多様な団体から参加があったことも今回の特徴です。事例を織り混ぜたプロ直伝の「伝えるコツ」の講義に、「テクニックではなく、何をしたいか、何を伝えるかが大事」「自組織を見直し、団体内で共有し考えることが重要」と参加者の方は「目から鱗」のようす。

各団体の広報物を見て気付いたことを出し合うワークショップでは、さまざまな意見が出され「いろいろな角度でチェックできたので非常に実践的だった」など、客観的に自団体の広報物を見る視点が高まったようす。「広報の悩みが解決できた」「何度も読み返して自分のものにしていきたい」——ぎっしりコメントが書かれたアンケートから、モチベーションの高まりが感じられました。(下平)

